

1 平和教育推進部の歩み

三人でも委員会だ

七二年、広島高教組の呉地区支部校を広高校分会が担当した年、平和教育推進部（責任者、萱原）がはじめて支部に位置づけられた。また、この年には、公害教育推進部（責任者、泉）と高校生活指導推進部（責任者、牧岡）も誕生した。

平和教育推進部では、支部長の近藤さんや書記長の泉さんを中心にして、月一回の部会を開いていた。はじめのうちは各分会からの集まりも悪く、三、四人で部会をもったこともあったが、運動は続けることに意義があるのだと励ましあい、教研活动や教材づくりに一年を費やしてしまった。翌七三年には、各分会に平和教育推進委員が置かれ、「平和読本」の編集も考えられはじめた。そして、七四年が変革の年になった。

この年には、推進部も充実し、呉地区の全高校生を対象に「戦争と平和に関する意識調査」をしたり、広高校の生徒会（浜崎執行部の第一期）を中心に「呉地区高校生平和の集い」が計画されたりした。また、広島市内の高校生が集いに参加してくれたことから、広島でも開こうと原水禁大会高校生実行委員会が生まれた。また、八月六日前後の原水爆禁止世界大会のなかで高校生分科会が行なえることにもなった。さらに、高校生のための「平和読本」については、

「教え子を再び戦場に送るな」——私たちの組合、日本教職員組合は、その設立と同時に、戦後教育の根底に平和主義を唱い、これを実現していくことをめざして力強いスローガンをかかげた。しかし、戦後三〇数年たった今、果たしてどれほど平和のための教育が推進されてきたか、広島教師たちはこれに自信をもって答えうるであろうか。広島の地においてさえ、それは歯ざしりさせられるくらい不十分なものである。

一〇年ほど前に、当地、呉でもやっとその必要性が論じられたが、言われるほどには大きな取り組みとはならなかった。広高校に組合の地区支部がめぐってきた年、やっと平和教育推進部が組織されたにすぎない。この年を境にして、公害教育や高校生活指導を推進するための専門部がつくれ、やっと組織的な教育運動として考えられるようになったが、まだ日も浅く十分な実践がなされてきたとは言いがたい。以下は、これまでの経過を中心とした教育研究活動のあらましである。